

消防訓練報告書

報告者 研究学習担当 梨子田

- 1・日時 : 平成25年6月21日
- 2・場所 : 東原小学校、ペンギン、クラブ
- 3・参加者 : 32名
- 4・講師 : 入間東部地区消防組合—瀬沼消防官、伊藤消防官
- 5・訓練内容 : 消火器訓練、地震体験訓練、通報訓練、講話、質疑応答
- 6・訓練報告

* 消火器の取り扱い—使用の手順の説明を受ける。

①ピンをはずす → ②ホースをはずす → ③レバーを握って発射。

1回の発射では、15秒の連続発射しか出来ない。

* 地震体験訓練 — 地震体験車に乗り阪神淡路大震災（M7）、関東大震災（M7）の地震を体験した。

* 通報訓練 — ペンギンクラブ内の内線電話を使用して行った。

電話では火災か救急かどちらかを伝え、現場の所在地、現場の状況、付近の目標物、通報者の名前、連絡先についての受け答えをした。

実際の通報でも、落ち着いて正確な情報を伝えて欲しい、連絡先は現場の電話は焼失し使用が不可能になる確率が高いので、通報者の携帯番号等を教えるのが良い。

7・講話

日本は世界でも最も地震の多い国のひとつである。

ここ数年のうちにも阪神淡路震災や東日本大震災等大きな地震が定期的に続いている。

現在でも東南海地震等、巨大地震がおきる確率が高いと言われている。

もし東南海地震がおきた場合を想定すると320万人が被災するという最悪のシナリオが想定されている。

被害を最小限に食い止めるには、その場で防災マニュアル等を基本に臨機応変の対応をすることが大切であり、日頃から定期的に防災訓練等を行ない、防災教育を徹底することが重要である。

8・質疑応答

Q 地震が起きた時ヘルメットや防災ずきんのような頭部を守るものが何もない状態のときは、どうすればいいのか？

A 両手で頭部を覆って頭を守り、出来るだけ身体を小さく丸めて、揺れが治まってから頭上からの落下物の心配のない安全なところに避難すればいい。

もし付近に分厚い本など頭部を覆うことで頭を守る事が出来る物があれば、

それを利用して頭を守れば良い。

Q 地震の揺れを感じたらすぐに外に出るのは正解か？

A すぐに外に飛び出すのは、かえって危険な場合もあるので、その場その場でしっかり状況を判断して行動するのが良い。

Q 地震のときには何を持ち出せばいいのか？

A 最低必要限の物を持ちだせばいいし、日頃から防災グッズとして準備しておくのが良いが、物よりも生命が大切だということを意識すべきだ。

9・感想・反省

- * 専任パート、代替えパートの参加が少なかった。
- * 今回は雨が降りそうな中、天候が心配されたが、屋外の訓練も実践できたのが良かった。
- * 当初は時間の関係で、全員は無理だと言われていた消火器訓練、起震車訓練、通報訓練を全員が体験できて良かった。
- * 東日本大震災の後、時間がたつにつれ次第に防災意識が薄れていくことを感じていたが、今回の研修を受講して改めて防災の重要性を感じた。
今後、いつ何時に大災害がきてもおかしくない状況の中、しっかりと意識を持っていかなければならないことを痛感した。

10・今後の課題

専任パート、代替えパートの出席率が良くないので、早めに周知をしたり、より多くの参加を促すようにしていきたい。

